

中国の子 震災や復興学ぶ

南三陸訪問「訓練の大切さ感じた」

中国・山東省済南市の5小学校の児童22人が南三陸町を訪れ、震災や復興の状況を学んだ。宿泊先でもある南三陸ホテル観洋が用意した語り部バスに乗って町内を一巡。車内で町の歴史を聞き、戸倉小跡地などの震災前の写真と、車窓から見える現状を比較した。

4階まで津波で浸水した高野会館ではバスを降り、3階までのガラスがすべて割れている様子などを見学した。300人余りが屋上などに避難し、声をかけ合いながら一夜を過ごした状況にも聴き入った。

参加者のひとり、張琳越さん(9)は「助かった人がいたことは幸いだった。避難教育がしっかりしていれば、万が一でも助かる。訓練の大切さを感じた」と話した。

(佐々木達也)

津波で被災した建物の状況を知り子供たちへ南三陸町志津川



2019年2月23日(土)朝日新聞